

# 連載 菊池実践に取り組む学校 第2回 全校で取り組む「ほめ言葉のシャワー」

大阪府 追手門学院大手前中・高等学校

## ■沿革と学校の概要

追手門学院大手前中・高等学校は、明治21年4月(1888年)に創設された大阪借行社附属小学校がその淵源になります。昭和22年11月(1947年)に追手門学院小学部・中学部と改称され、さらに昭和25年4月(1950年)には、追手門学院高等学部が開設されました。平成27年(2015年)現在、学院創立127年、追手門学院大手前中・高等学校創立65年の歴史ある学校です。

校舎は、大阪城のお堀に面した大阪市内の中心にあり、近隣には大阪府庁合同庁舎や大手前病院、大阪府警等の官庁およびオフィスが並ぶ市街中心地にあります。交通の便が良いため、大阪府内だけでなく、和歌山県や三重県から通う生徒もいます。

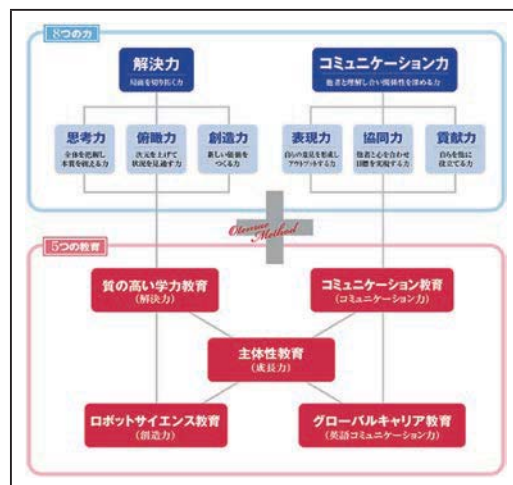
## ■教育理念

独立自彊・社会有為  
～自由と調和の人間教育をめざして～

「独立自彊」とは、自分の考えをしっかりともち個性を大切に、自らの成長に向かって日々努力すること。「自彊」は「自強」と同じ意味で、自らをつとめ励むということを表します。

「社会有為」とは、世のため人のためにつくすことです。自主的自律的な精神と確かな個性をもち、同時に、他者や社会のことをきちんと考え、豊かな社会性をもった人間を育てることをめざしているのです。

## ■時代を生きる【8つの力】と8つの力を育む【5つの教育】



追手門学院大手前中・高等学校では、「解決力」と「コミュニケーション力」を中心に8つの力を獲得するための独自の教育を展開しています。「解決力」とは、先の見えない時代において、物事の本質を捉え、状況を俯瞰し、新たな価値をつくり出し、困難な状況を打開する能力で、「思考力」「俯瞰力」「創造力」を含みます。

もう一つの「コミュニケーション力」は、複雑化する社会の中で自分の意見を明確に発信すると同時に、他者を理解することで、より良い関係性を築き、社会に貢献できる力のことで、「表現力」「協同力」「貢献力」を含んでいます。

そして、その8つの力を着実に身に付けていくための方法として、5つの教育を掲げています。脳科学の成果を学校教育に適用した「質の高い学力教育」、言葉の持つ力を大切に「コミュニケーション教育」、人間とし

ての自立心を育む「主体性教育」、グローバル時代に対処できる「グローバルキャリア教育」、サイエンスリテラシーや問題解決力、創造力など多くの素養を同時に磨く「ロボットサイエンス教育」です。これら5つの教育を有機的に結びつけることで、新しい時代を生き抜く力を育成しようとしているのです。

## ■ロボットサイエンス教育

サイエンス教育を重視する追手門学院大手前中・高等学校では、そのために充実した教育環境・設備を整え、豊富な理科実験・観察を推進しています。液体窒素を使った物質の状態変化の観察や、スルメイカなどの生物解剖に取り組むなど、「本物をみる」「本物に触れる」機会を大切にすることで、図録だけでは実感できないさまざまな気づきを獲得したり、実験では身近な材料を用いることで、日常生活の中にサイエンスの対象が数多く存在することを知り、理科に対する関心を高めたりしています。

また、「ロボット教育」は、全国でも数少ない、追手門学院大手前中・高等学校ならではの先進的な取り組みです。

ロボット製作を通して、手先の器用さやコンピュータの技能を身に付けるだけでなく、創造力や問題解決力を身に付け、周囲との協力の大切さやコミュニケーション力を育成するなど、人間として大切な素養を幅広く身に付けることを目的としているのです。豊かな人づくりを実現する場としてロボットサイエンス教育を位置づけ、全校的に推進されています。

2014年にはロボットサイエンス部が、世界50か国約8万人の生徒(小・中・高)が集う世界的なロボットコンテストであるWRO(World Robot Olympiad)世界大会に初参加するとともに、2015年にも世界大会に連続出場し、ロボット製作を発表するオープンカテゴリー中学生部門で第7位に輝くという快挙を成し遂げました。



## ■コミュニケーション教育の充実

追手門学院大手前中・高等学校では、コミュニケーション能力の向上を目指して、独自の「ことば教育」を推進しています。

・国語力を創る700語

厳選した言葉を収録した独自教材「国語力を作る700語」を使用し、豊かな国語力を育成します。中学3年もしくは高校1年までに700語を習得します。

・作文演習/綴り方指導

作文演習では、事実や自分の考えを正確に伝える力を養成します。スクールダイアリーを通じての担任とのやり取りで、自分の考えを綴る練習をします。

・ディベート型学習

課題に対して肯定側・否定側に分かれてディベートを演習します。思考を整理して正確に伝えるとともに、相手の発言に対する論理的な対応力を身に付けます。

また、普段の授業や日々の学校生活の中でも、さまざまな取り組みを実施しています。その土台となる豊かな語彙力の習得や、クラス中にポジティブな言葉をあふれさせることを目的として菊池省三先生のオリジナル実践である「ほめ言葉のシャワー」の活動によって、友達の言葉に耳傾け、自分の言葉で正確に意思を伝える力を養うとともに、友達への貢献やより良い人間関係づくりに対する気づきも促しています。

■「ほめ言葉のシャワー」の取り組み

約3年前、追手門学院大学が「心の教育研究所」設立記念セミナーに菊池先生を講師として呼ばれたとき、追手門学院の関係者は、「ほめ言葉のシャワー」の取り組みに大変関心をもたれました。木内淳詞校長は、生徒たちの自己肯定観の低い状況、挨拶はきちんとできているのに日常の言葉が乱れている状況、友達同士で上手く言葉でコミュニケーションが取れない状況などを目の当たりにして、生徒指導面での強い軸の必要性を考えられました。その軸となる取り組みの一つとして、平成26年度から「ほめ言葉のシャワー」の中学校への導入を決められました。

まず教員が、「ほめ言葉のシャワー」の良さや目的について徹底した議論を重ねた上で、取り組みをスタートさせました。



また、菊池先生のお話を、生徒や保護者にも聞いてもらうための場をPTAと協力して開催したり、教員研修の講師として招くなど、学びの場を連続して設定しています。



▲2015年11月10日に開催された講演会

◎1年1組(担任:宮本佳世子先生)の取り組み

1年1組では、2015年11月10日に来校された菊池先生が直接参観される中で、「ほめ言葉のシャワー」をスタートさせました。

それまでに、「教室の中であふれさせたい言葉」を出し合う活動を行い、言葉のもつ力について学びながら、この日を迎えました。



また、スクールダイアリーの一部に「今日のMVP」として、友達をほめる内容を書く活動をこの日まで継続してきました。

そして、迎えた初めての「ほめ言葉のシャワー」の実施の日。最初の「ほめ言葉」を浴びる主人公となったのは、浅井嵐君でした。日直の司会で「ほめ言葉のシャワー」が始まると、とても初めてとは思えないテンポで、次々と「ほめ言葉のシャワー」が浴びせられました。浅井君が、最後のお礼の言葉で、「みんなに迷惑をかけることが多いのですが、そんな僕でもいいところを探してくれていい気分になりました」と感想を述べると、教室が大きな拍手で包まれました。



▲1年1組、初めての「ほめ言葉のシャワー」

◎2年(担任:南部竜人先生他)の取り組み

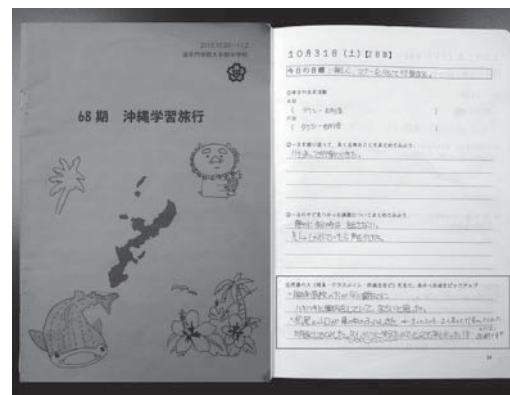
2年は、非日常の中での「ほめ言葉のシャワー」にも取り組んでいます。

10月から11月にかけて、3泊4日で「沖縄学習旅行」に出かけました。

その旅行の中で、毎日の様子を記録するしおりの中に、一つの項目として「周囲の人(班員・クラスメイト・同級生など)を見て、良かった点をピックアップ」という欄を設け、日々の活動の中で、友達の良い点を見つける活動を設定しました。

また、夜の集会では、グループでほめ合う、クラスでほめ合う、学年でほめ合う、というように、少しずつ集団を大きくしていきながら「ほめ言葉のシャワー」を行いました。

普段とは違う非日常の中で、友達をほめ合うことにより、新しい良さを見つけることができたり、100人ほどの学年全員の前で話す新しい体験ができたりと、行事を最大限に生かす取り組みによって、生徒の成長も加速しているようです。



◎3年1組(担任:平井俊介先生)の取り組み

この日の「ほめ言葉のシャワー」を浴びた矢野龍星君は、お礼の言葉として、「一つ目は、僕のことを『いい奴』というような仲間にしかなかった言葉を書いてくれる友達をもてよかったですと思いました。二つ目は、リーダーシップがあると言ってくれましたが、小学校のときは全然そうじゃなくて、どっちかというところを批判していました。前に立って、それについてお礼を言えることがありがたいです。三つ目は、今日、じゃんけんゲームをしましたが、クラスみんなが明るくて楽しそうでした。このクラスになれたことがとてもうれしいです」とほほえみながら述べました。

「『ほめ言葉のシャワー』に取り組んでよかったですか?」との問いに何人かが答えてくれました。「人のことをほめることで、いい雰囲気のクラスになったこと(上出楓果さん)」、「クラスの絆が深まった(北川滯璃斗君)」、「ポジティブになったこと」と、生徒たちは、「ほめ言葉のシャワー」による自分たちの成長を確実に感じているようです。



追手門学院大手前中・高等学校  
(木内淳詞校長)  
〒540-0008  
大阪府大阪市中央区大手前 1-3-20  
TEL.06-6942-2235 FAX.06-6945-7552  
URL: <http://www.otemon-js.ed.jp/>  
E-mail: [info@otemon-js.ed.jp](mailto:info@otemon-js.ed.jp)